

CASE

〔事例2-1-2〕

創業以来、営業担当者を置かず、高度な技術により、全国から注文を受ける企業

東京都大田区の株式会社上島熱処理工業所（従業員45名、資本金1,000万円）は、高速度工具鋼¹¹製の切削工具やプレス金型等の人手がかかり高度な技術や技能を必要とする特注の熱処理を得意とする企業である。

同社は、高度な技能者集団を有しており、従業員のうち2人が「黄綬褒章」を受章した「現代の名工」であるほか、8人が「特級熱処理技能士」の資格を保有し、従業員の大半が1級又は2級の技能士である。また、熟練工2人が「東京マイスター（東京都優秀技能者）」に認定されている。

同社は、創業以来、営業担当者を置いていないが、その高い技術力を活かして、「難しい熱処理は上島に頼め。」と、全国から注文を受けるようになった。同社の上島秀美社長は「国宝級の技能と言われているが、その人に偏った技能ではない。熱処理はチームワークで行うため、一人一人の技能が重要となり、年齢のバランスも重要となる。」と語る。最近では、大学を卒業した技術者や大企業で定年退職した技術者も増加しており、高度な技術相談にも対応できる体制を整えている。また、社員には技能の習得のみならず、社内外の講習会に参加させることにより理論を習得させており、幅広い人材確保と多様な人材育成により、高度な技能を次世代に引き継いでいこうとしている。



熱処理を行う技術者

CASE

〔事例2-1-3〕

国の施策を有効活用し、危機を乗り越え、トヨタ自動車株式会社との直接契約を勝ち取った企業

静岡県浜松市の國本工業株式会社（従業員61名、資本金2,000万円）は、1960年創業の自動二輪車や自動車の部品関連のパイプ加工等を行う企業である。

地元大手企業の下請として、自動二輪車部品関連のパイプ加工を主な事業としていたが、自動二輪車製造の国外移転が進む中、取引先で親しくしている企業の紹介で、自動車部品関連の仕事を始めた。

自動二輪車部品のパイプ加工から自動車部品のパイプ加工へと生産をシフトさせていく中、2002年には中小企業の創造的事業活動の促進に関する特別措置法の認定を受け、国の支援の下、パイプ加工に特化して、加工技術を追求させていった。

静岡県の外郭団体である（財）しずおか産業創造機構から、トヨタ自動車株式会社主催の「静岡県中小企業新技術新工法展示会」への出展を薦められて出品したことをきっかけに、トヨタ自動車株式会社へパイプ加工の技術力を認められ、直接契約を結ぶに至り、同社の國本幸孝社長は自社を「シンデレラカンパニー」と表現している。現在では、「レクサスLS600h」のプラグチューブの製造も任されている。

同社は、「未来への勝ち残り」を合言葉に、技術力の追求と同時に徹底した費用管理も行っており、リーマン・ショック以降の厳しい経済情勢の中でも、黒字経営を維持している。



エンジン点火プラグ部品



レクサスLS600h

11 ハイス鋼とも呼ばれ、金属加工に用いられる刃物、治具、金型等の材料である工具鋼の高温下での耐軟化性の低さを補い、より高速な金属材料の切削を可能にする工具の材料とするために開発された鋼をいう。